

厚生労働科学研究費補助金（地球規模保健課題推進研究事業）

分担研究報告書

**東アジア、オセアニアにおける生活習慣病対策推進のための学際的研究  
—中国における疫学調査準備・社会学調査—**

研究分担者 磯 博康 大阪大学大学院医学系研究科教授  
研究分担者 崔 仁哲 大阪大学大学院医学系研究科助教

**研究要旨**

中国において、北京大学医学部公衆衛生学院と共同で、北京市 Fangshan コホート研究フィロールドにて、一般住民の生活習慣病とライフスタイルについて社会学的調査を実施した。その結果をもとに、来年度に循環器疾患やそのリスクファクターに関する疫学調査を実施することを決定した。本社会学調査は、パラオで実施した社会学調査質問票の中国語版を用いた。調査形式はグループインタビューと個人インタビューにし、対象者は18～70歳男女37人中、30人を4群に分けグループインタビューをし、7人に対して個人インタビューを実施した。その結果、Fangshan 地域では、伝統的に漬物の摂取習慣があり、塩分摂取量が他の地域より多く、肥満者の増加を感じており、健康意識も改善したものの、行動までに実施していない。飲酒・煙草の習慣は減少傾向があるが、一方で、野菜、糖質・脂質や蛋白質など摂取量は全般的に増えつつある。今後、定量的疫学調査による生活環境・食生活関連因子の解明の必要性が示された。

## A. 研究目的

急速なライフスタイルの変化に伴う、人々の暮らしの状況および伝統的な食文化と現代の食生活の実情を社会的に調査し、その後実施する予定の循環器病疫学調査の具体的な方法と内容を、調査地の文脈に合致した形で行えるよう決定する。

## B. 研究方法

2013年5月23日～28日において社会学調査を実施した。社会学調査はグループインタビューと個人インタビューの形式で行い、対象者は中国北京市の郊外にある Fanshan 地域に在住の18～70歳男女37人中、30人を18～30歳7人、31～45歳7人、46～59歳8人、60歳以上8人の4群に分けグループインタビュー対象(表1)にし、7人の個人インタビュー対象は地域保健所職員3人、町病院院長と医師1人、村医師1人、村長とした。グループや個人調査において、各グループ2時間ずつ実施し、各グループインタビューや個人インタビューにそれぞれにファシリテーター1人とアシスト1人で実施した。

社会学調査の質問内容は、以下に示した通り、その中国版は付録に示している。

食生活に関して伝統的な考えや実践されてきたこと

運動など身体的な活動に関して伝統的な考えや実践されてきたこと、

過去と現在における健康に関する知識・態度・行動

家族やコミュニティとの関係性が健康に与えてきたこと並びに健康に関する知識・態度・行動に影響を与えてきたこと

生活習慣病問題を軽減するためのアイデアや方法

### (倫理面への配慮)

本調査は対象者本人から、文書によるインフォームド・コンセントを得て研究を行った。研究開始時に疫学研究参加者に研究の説明をして、調査対象者が署名した。また、この研究全体については、2012年7月に名古屋大学医学部倫理審査委員会にて倫理審査を受け、承認を得た。また、2012年12月に大阪大学

の倫理審査委員会にて倫理審査を受け、承認を得た。

## C. 研究結果

### 1. 中国社会学調査

グループインタビューの対象者を表1に示した。グループインタビュー調査の主な結果として、グループ1群(30歳未満)では、塩分摂取量が多いと認識し、以前より体重の増加を示しており、その原因として仕事からのストレス、社会関係(人との付き合い)が挙げられた。健康意識はあるが、会社健診に参加程度にとどまる。グループ2群(31～45歳)では、塩分摂取量が多いとの認識が乏しい、以前より体重の増加を感じており、仕事からのストレスは感じない、自己が不健康との意識があるものの、自発的に健診には参加しない、との特徴があった。グループ3群(46～59歳)では、塩分摂取量が多い、体重の増加、仕事からのストレスはない、自己が不健康との意識があるものの、現状満足で健康増進意識が乏しい、との特徴があった。グループ4群(60歳以上)では、塩分摂取量をコントロールする。ストレスを感じない、食事バランスよく取ることに注意を払い、自己が不健康の意識を持ち、積極的に運動し、健診も受け、健康増進意識が強い、との特徴があった。

表1 グループインタビュー調査対象者

グループ	人数	年齢区分
1	7	30歳以下
2	7	31～45歳
3	8	46～59歳
4	7	60歳以上

個人インタビューでは、北京市 Fanshan 地域では伝統的に漬物の摂取習慣があり、塩分摂取量が多く、若者(30歳未満)ではおやつ(漬物)の摂取習慣が多いが、老年者(60歳以上)ではその習慣が少ない。どの年齢層でも全般的には野菜摂取が多く、肉類が少ない。また、

食事は全般的に以前より多くなり肥満者も増えつつある。健康意識が増えつつあるが、60歳以上では、運動や健康診断に積極的に参加している。これは、定年や60歳以上への健診割引などの老年者の時間的余裕と政策面での支援との関連が示唆された。

#### **結論：**

住民の健康意識が改善しつつあるが、60歳未満の対象者では、肥満などを不健康と意識しているにもかかわらず、改善までに実行していなかった。60歳以上の対象者は積極的に健康促進に取り組んでいた。

#### **考察：**

生活環境の変化に伴い、健康意識が改善するものの、肥満などの新たな問題が現れ、運動や健康促進のための対策が必要になり、生活環境や食生活の関連因子の解明の必要性が示された。

## **2. 東アジアでの研究**

平成25年5月下旬に北京市Fanshanで実施した社会学調査の結果をもとにし、北京大学公衆衛生学院のHu教授、Wang教授と、北京市Fanshanコホートにおいて、平成26年度疫学調査を実施するための協議を行う計画である。

### **D. 健康危険情報**

該当事項なし

### **E. 研究発表**

#### **1. 論文発表**

1. Wu N, Tang X, Wu Y, Qin X, He L, Wang J, Li N, Li J, Zhang Z, Dou H, Liu J, Yu L, Xu H, Zhang J, Hu Y, **Iso H**. Cohort profile: the fangshan cohort study of cardiovascular epidemiology in Beijing, china. J Epidemiol. 2014;24:84-93.

### **F. 知的財産権の出願・登録状況**

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

## 資料

### 社会疫学調査用

#### 中国 FANGSHAN STUDY において、の日本語・英語・中国語の質問票

##### 社会学調査

###### ○ 質問項目：日本語

- 1) 食生活に関して伝統的な考えや実践されてきたこと
- 2) 運動など身体的な活動に関して伝統的な考えや実践されてきたこと
- 3) 過去と現在における健康に関する知識・態度・行動
- 4) 家族やコミュニティとの関係性が健康に与えてきたことならびに健康に関する知識・態度・行動に影響を与えてきたこと
- 5) 生活習慣病問題を軽減するためのアイデアや方法

###### ○ 質問項目：英語

##### Research Questions

1. What are some of the traditional beliefs/practices relating to diet and food in the old days?
2. What are some of the traditional beliefs/practices which relate to physical activities?
3. Knowledge, attitudes and behavior for health? How have knowledge, attitudes and behavior for health affected Palau in the past and today?
4. How have relations with family and community affected people's health? What are some of the situations which have affected people's knowledge, attitudes and behaviors about health?
5. What are your ideas/strategies for making positive changes or for reducing non-communicable diseases?

###### ○ 質問項目：中国語

###### ○ 研究内容（问卷项目）:

- 1) 饮食生活方面，有哪些传统观念和习惯？
- 2) 有关身体活动的运动方面有哪些传统观念和习惯？
- 3) 过去和现在对健康的知识、态度和行为习惯？
- 4) 家庭和社区给人们的健康所带来的影响？ 以及人们对健康的知识、态度和行为所带来的影响？
- 5) 为了身体健康、为了减少非传染疾病，有什么方法或有什么想法？